

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

# おおづ 1

JANUARY 2018



# 迎春

新春企画 clozu-up Ozu-jin Special

宝塚歌劇団 宙組トップスター 真風涼帆さん

(インタビュー記事は7~9ページ)



広報が読める  
スマホアプリ  
マチイロ

clozu-up  
Ozu-jin  
クローズアップ 大津人

Public relations  
OZU TOWN

広報 おおづ 2018 1

発行・編集 大津市・総務課  
〒869-1292 熊本市菊池郡大津町大字大津 1233番地  
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷株式会社  
〒869-1292 熊本市菊池郡大津町大字大津 1233番地  
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

UD FONT  
真やまぐちがえん  
ユニバーサルデザイン  
を採用しています。



設立当初に作られた法被は「火の国」をイメージしたもので、県外で歌うときには熊本をPRできるので好評という。



## 「民謡で『熊本の元気』を届けたい」

日本郷土民謡協会「火の国ふる里支部」

「第57回郷土民謡民舞全国大会」合唱の部、4回目の挑戦で悲願の優勝を飾った、火の国ふる里支部の皆さんをクローズアップする。指導者の高見春代さんに話を聞いた(写真前列㊟)。

結成は15年前。指導者で自らも数多くの民謡全国大会で優勝経験を持つ、高見春代さんを中心に名もない同好会として活動を始めた。6年前に日本郷土民謡協会「火の国ふる里支部」を設立。現在の会員数は20人で、年齢は3〜77歳と幅広い。週1回の活動で2時間。それぞれの仕事や家事が終わって練習場に来る。練習は真剣ながら、練習が終わった後も民謡談義に花が咲き、気がつくといつ分も話し込んでいたという。

会に入ろうと思ったきっかけは「偶然に先生の歌を聴いて、歌えるようになりたいと思いました」。「カラオケはもともと好きだったけど、民謡を習ったらもっとうまくなるかなと思って」などそれぞれ。共通するのは歌が好きなこと。

「民謡はどうしても難しいという考えがある人が多くて、皆さんに敬遠されてしまっています。民謡の心に触れてみたら会員の皆さんみたいに魅力を知ってもらえるのに」と春代さんは肩を落とす。

民謡人口は年々減っており、ピーク時には県内に3,000人ほどだったが、今は500人ほどに減っているという。

「民謡は土地ごとの思いが詰まっている。歌詞の中の思いを理解して歌うことで土地を知り、文化を知る。歌うことで残したいよね」と話すのは夫で会員の浩一さん。

今大会で披露した曲目も、「九州の子守唄」と題し、ふるさとへの思いを歌ったものだ。

「民謡人口を増やすのも目的のひとつですが、まずは民謡を楽しんでもらいたい。たくさん全国大会に出て、熊本の復興に向けた頑張りや支援への感謝をふるさとへの思いと一緒に届けていきたい」と春代さん。

民謡を通してできた絆と郷土愛を歌声にのせる。現代の吟遊詩人の活躍に目が離せない。

## からいもくん便り

大津町総合情報メール  
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。



登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

「明けましておめでと  
うございます」▼今回の  
クローズアップ大津人  
は2本立て。「宝塚」の  
真風さん、「民謡」の高  
見さん。共通するのは  
ふるさとへの思い▼「幼  
い頃の楽しい思い出が  
あるから、この場所が  
好き」多くの人が持つ  
ている、「思い出」が人  
を動かします▼「郷土愛  
を語って」とすると構  
えてしまいがちですが「楽  
しい思い出を話して」  
となると自然と話は  
ふるさとと重なりなが  
ら出てきます▼ふるさ  
とは人を作る「核」のよ  
うなもの。とても勉強  
になりました(M DEO)

こころの声